

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業改良普及センター

「稲作情報（第10号）、大豆作情報（第7号）」について（送付）.

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第10号）、大豆作情報（第7号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

この情報はホームページ

<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00323270/index.html>

にも随時公開しています。

杵島農業改良普及センター

検索

気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (°C)	R1 (°C)	平年差 (°C)	平年 (mm)	R1 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R1 (hr)	平年比 (%)
8月	1	27.9	30.2	2.3	33.3	36.8	3.5	24.0	25.8	1.8	25.3	0.0	0	36.6	54.9	150
	2	27.8	28.6	0.8	33.2	34.1	1.0	24.0	24.6	0.6	26.5	25.5	96	35.5	30.8	87

8月1半旬の気温は平年より高く、降雨は無かった。また、日照時間も平年比150%と長かった。

8月2半旬の気温・降水量は8月6日の降雨の影響もあって平年並み。日照時間については平年比87%と短く推移した。

1. 情報田の生育状況（調査日：8月13日）

項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく (武雄市橘町)	本年値	91.0	328	13.0	31.6	葉齢、草丈は平年並み。茎数は平年よりやや少ない。葉色は平年よりかなり薄い。 幼穂長は182mm 出穂期は8月16日頃の予想
	平年値	88.3	362	13.4	34.8	
	平年比(差)	103%	91%	-0.4	-3.2	
ヒノヒカリ (白石町新明)	本年値	89.1	376	13.7	35.4	葉齢は平年並み。草丈は平年より高く、茎数は平年よりかなり少ない。葉色は平年よりやや薄い。 幼穂長は105mm
	平年値	81.4	461	13.3	36.1	
	平年比(差)	109%	82%	+0.4	-0.7	
さがびより (武雄市橘町)	本年値	75.2	250	12.8	31.3	葉齢、草丈は平年並み。茎数は平年よりかなり少ない。葉色も平年よりかなり薄い。 幼穂長は6.8mm
	平年値	77.1	428	13.0	35.0	
	平年比(差)	98%	58%	-0.2	-3.7	

注) 平年値はH21~H30の10年間の平均。なお、ヒノヒカリについてはR1より耕作者が変更したため、平年値は参考値とする。

2. 一般田の生育状況及び今後の管理

本年は高温の影響で中干しが強すぎた圃場では葉先の黄化が散見されました。今後は稲が最も水を要求する時期ですので、黒乾状態以上に乾燥しないよう間断灌水を行いましょう。

1) 夢しずく

平坦部6月中旬移植の出穂盛期は、8月16日頃と予想され、現在、一部で出穂はじめとなっています。

2) ヒノヒカリ

6月17日頃移植した圃場では、現在、穂ばらみ期です。

3) さがびより

6月22日頃移植した圃場では、幼穂形成期をむかえ、穂肥施用時期になっています。

3. 今後の管理

1) 水管理

幼穂形成期以降は稲が水を要する時期となります。中干しをしている圃場は入水し、間断灌水を行ってください。今後、高温で晴天の日が続く場合は、田面が白乾状態にならないよう水管理に努めてください。

【台風通過後】

茎葉の損傷により根の老化が進むことがあるので、新しい水と交換し、こまめに間断灌水を行い、根の機能維持に努めましよう。

2) 施肥管理

ヒノヒカリ

穂肥施用時期を過ぎているため、穂肥を実施していない圃場は早急に診断結果を基に施用してください。草丈が80cm以上で、葉色が濃い圃場に穂肥を施用すると倒伏の危険性もありますので十分注意してください。

さがびより

穂肥の施用時期は、幼穂長10mmが基準となります。幼穂長5mm以上になったことを確認してから、下表の穂肥診断基準に従って施用してください。

【表 さがびよりの穂肥診断基準】

	幼穂形成始期の 草丈cm	葉 色		幼穂長	出穂前 日数	施用量 N成分kg / 10a
		群 落	SPAD			
穂肥診断時	7.5cm以下 (標準)	2.5以下	33以下	5ミリ	20~18日	2.5kg
		3.0	33-37	10ミリ	18日	2.0kg
		3.5	37-38	15ミリ	16日	1.0kg
	7.5cm~ 8.0cm	3.8以上	39以上	施用しない		
		3.0以下	36以下	10ミリ~15ミリ	18~16日	1.5kg
	3.0以上	37以上	施用しない			
8.0cm以上	施用しない					

3) 病害虫

いもち病

本年は平坦部の圃場においても、葉いもちの発生が見られ、**特に山沿いや山麓部で激発している圃場も散見されます。**間もなく出穂期となる夢しずくやヒノヒカリで、上位葉に病斑が見られる場合は、穂いもち対策の薬剤防除を実施してください。

また、さがびよりの圃場でいもち病の病斑が目立つ場合は、一回目の防除にいもち病の薬剤を混合して散布して下さい。一回目の防除以降、穂ばらみ期に上位葉に病斑が見られる場合は、夢しずく同様、穂いもち対策の薬剤防除を実施してください。

発生が著しい場合はオリブライト 1kg 粒剤を散布してください。

紋枯病

7月下旬より発生が散見される圃場があります。上位葉への進展すると、登熟を低下するため収量と品質に影響を及ぼしたり、倒伏を助長します。紋枯病菌は風通しの悪い圃場条件や、高温で多湿な気象条件を好むので、発生が多い圃場では薬剤防除に努めましょう。

ウンカ類

本年はトビイロウンカの飛来量が多く、今後、早植え及び普通期水稻で発生が増加し、被害を生じる恐れが高まっています。本年はトビイロウンカと競合関係にあるセジロウンカの飛来量が少なく、8月の気温は平年並か高いと予想され、本虫の増殖にやや好適な条件となっており、被害を生じる恐れが高まっていることから、今後の本田防除の適切な実施が極めて重要です。圃場ごとの発生状況を確認したうえで防除対策を徹底してください。

コブノメイガ

本種に対しては、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）の防除効果が最も高いです。田植え時期、地域、水稻の品種等の違いによってコブノメイガの発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで出穂期に被害葉が20%を超える恐れがある場合には、防除対策を講じましょう。

その他（台風通過後）

茎葉の損傷で、白葉枯病等が発生しやすいので常発地では注意してください。また、出穂前後の夢しずくでは、籾ずれや枝梗が損傷し、穂枯れや穂いもちが発生しやすくなるので注意してください。

4. 大豆作情報

1) 生育状況

播種時期毎の生育状況は、7月上旬播きで出芽揃いが良好であった圃場では本葉8葉期程度、7月中旬播きの圃場では本葉5葉期程度、7月下旬播きの圃場では本葉2～3葉期となっています。播種時期によって生育差があるため、圃場ごとに生育ステージを確認し、適期管理に努めてください。

2) 今後の管理

(1) 病害虫防除

ハスモンヨトウ

- ・圃場内で白変葉を発見された場合、臨機防除を行ってください。
 - ・農業技術防除センターの情報では、8月2半旬に行ったトラップ調査の結果から、現在の発生量は平年並みであるものの今後1か月の気温は高い予想となっており、発生が平年よりやや多い条件となっています。
 - ・薬剤の防除効果は、粉剤より液剤の方が高く、今後は大豆の生育量が大きくなるにつれ、茎葉にまんべんなく薬剤が付着するように丁寧な散布を心がけましょう。
- 各農薬の使用基準内での薬量で散布しましょう。

カメムシ類

- ・ハスモンヨトウ同様、平年よりやや多い条件となっているため、莢の伸長初期から子実肥大中期に確実に防除を行ってください。

(2) 土寄せ

- ・7月上中旬播種の生育量が確保されている圃場では開花期前までに土寄せを完了してください。土寄せを行う場合、土が株元まで被るよう、丁寧な作業を心がけてください。
- ・7月下旬播種の圃場においても、1回目の培土時期となってきたので、子葉が隠れる程度に土寄せを行ってください。
- ・雑草が多発生している圃場は土寄せと除草剤の組み合わせで、雑草防除に努めてください。

<害虫防除剤>

対象害虫	薬剤名	使用量	備考
ハスモンヨトウ	ノーモルト乳剤	2000倍	発生初期の若齢幼虫 (収穫14日前まで)
	プレバソフロアブル	4000倍	老齢幼虫にも効果が高い (収穫7日前まで)
	トルネードエース DF	2000倍	
	ロムダン粉剤 DL	4kg/10a	幼虫の発育齢に関わらず効果が高い (収穫14日前まで)
ハスモンヨトウ及び マメシクイガ	プレオフロアブル	1000~2000倍	中・老齢幼虫にも効果が高い (収穫7日前まで)
カメムシ類	キラップフロアブル	2000倍	速効性で残効期間が長い (収穫7日前まで)
	スタークル液剤 10	1000倍	
カメムシ類及び アブラムシ類	トレボン EW	1000倍	白変葉が散見され始めたら防除し発生初期の若齢幼虫に散布する (収穫14日前まで)
ハスモンヨトウ及び カメムシ類	トレボン粉剤 DL	4kg/10a	

<散布防除散布例>

	第1回目防除	第2回目防除
液剤の場合	トレボン EW + ノーモルト乳剤 1000倍 2000倍	プレバソフロアブル + トレボン EW + トップジン M 水和剤 4000倍 1000倍 1000倍
粉剤の場合	ロムダン粉剤 DL 4 kg/10a	トレボン粉剤 DL + トップジン M 粉剤 DL 4 kg/10a 4 kg/10a
	第3回目防除	
液剤の場合	プレバソフロアブル 4000倍 + スタークル液剤 1000倍	
粉剤の場合	トレボン粉剤 DL 4kg/10a	

以前の大豆作情報(5,6号)に掲載していたアタックショットの薬量に誤りがございました。20~30ml/10aとしておりましたが、正しくは30~50ml/10aです。

ご迷惑をおかけし、大変申し訳ございません。